

旭 川 市

6346 渡邊 啓吾

1.地名の由来

「旭川」という地名は開村の告示で村名として登場したのが最初である。地名の由来については、忠別川のアイヌ語で「チュプ・ペツ」を語源にしている説がよく知られている。「チュプ」は「日」の、「ペツ」は川の意味で、「日」を「旭」に置き換えて「旭川」と意識して名付けたと言われているが、諸説があって定かではない。

2.歴史

旭川市は、明治 23 年 9 月 20 日に上川郡に初めて旭川村、永山村、神居村の 3 村が置かれ、明治 24 年から開発の尖兵として屯田兵が入植し、旭川は上川を中心として開拓が進められた。明治 31 年には鉄道が開通、明治 33 年には旭川村から旭川町に改称され、札幌から第 7 師団が移駐するなど、産業・経済の基盤が成立し、道北の要としての使命を担ってきた。さらに先人たちの偉大な努力により大正 11 年 8 月市制施行、昭和 30 年から近隣町村との合併が進み、昭和 45 年に人口 30 万人、昭和 58 年には人口 36 万人を超え、北海道では札幌に次ぐ第 2 の都市となった。また、主要国道 4 本、ＪＲ 4 線の始終点となっているほか、平成 2 年 10 月道央自動車道が旭川まで開通、さらに平成 9 年 2 月旭川空港 2500m 滑走路が供用開始されるなど、北北海道の中核都市のみならず、道北・道東地域の商業流通の拠点都市として着実に発展を遂げている。

平成 12 年 4 月 1 日、道内初の中核市に移行し、「水と緑に輝く 北の拠点・旭川」の新たな創造に向け、市民主体のまちづくりを基本としながら、誇りと喜びを実感できる質の高いまちづくりを進めているところである。

3.地図・地理・気候

旭川市は、北海道のほぼ中央にあるか上川盆地に位置している。内陸特有の気候で、年間気温差が大きい。夏は、緯度の割りに暑く、冬は厳しい寒さとなる。1902 年 1 月 25 日には日本気象官署での観測史上最低気温-41.0 度を記録した。緯度、軽度は北緯 43°45' 東経 142° 21'である。

図1 旭川市地図



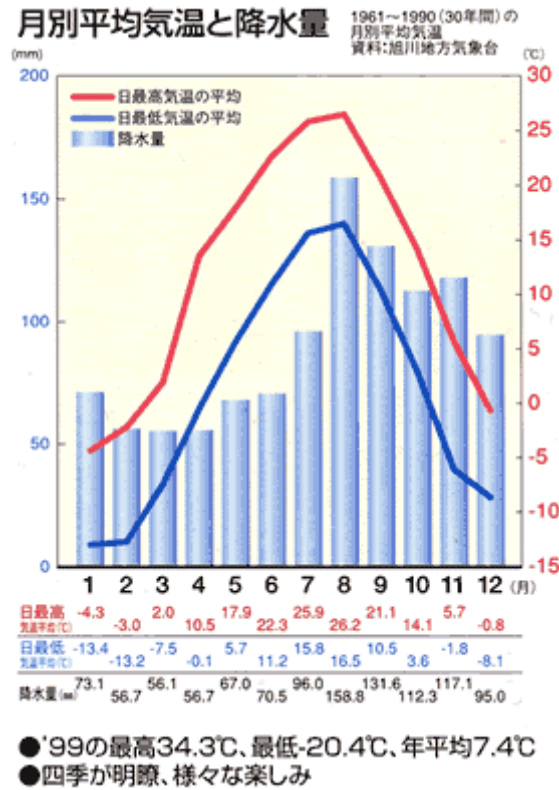
出典：旭川情報ねっと

図2 旭川市の位置



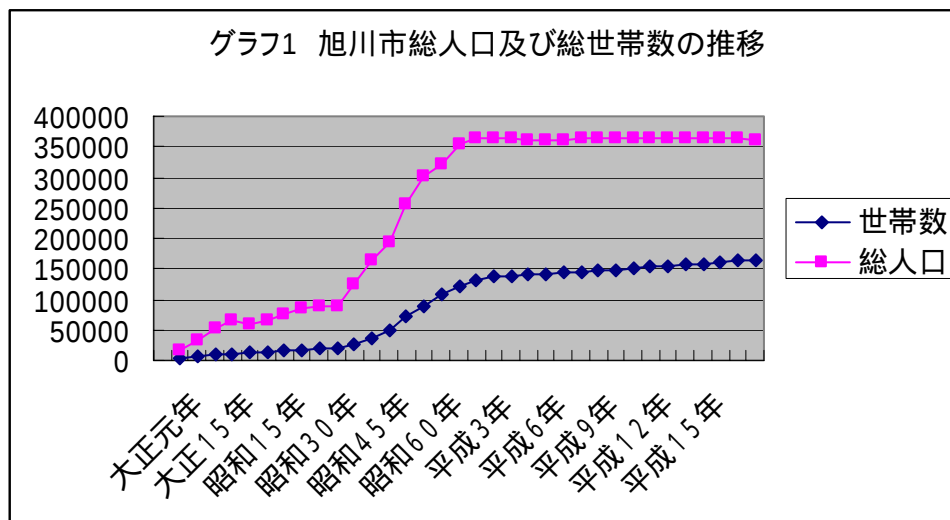
出典：J A あさひかわ

図3 旭川市月別平均気温と降水量



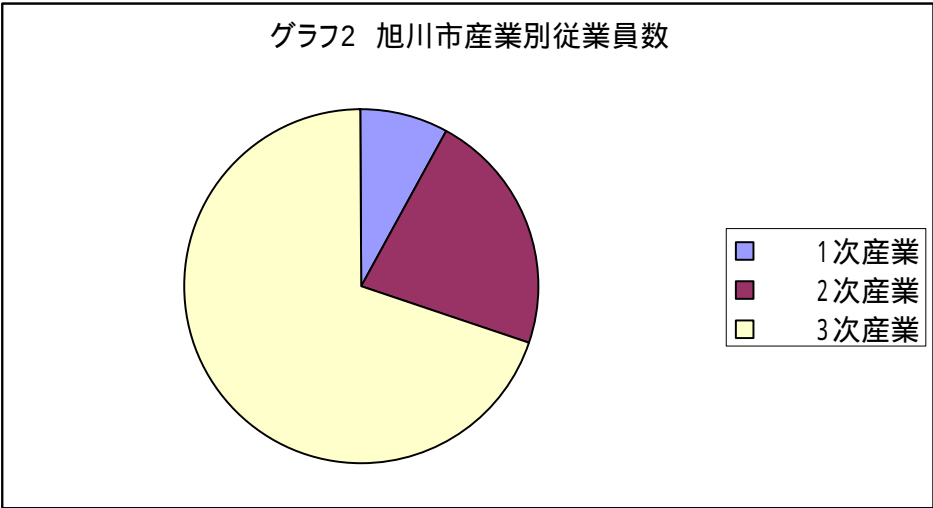
出典：旭川市役所HP

4. 人口・世帯数推移



現在の旭川市の総人口は、7月末現在で 358,578 人であり、男女別でみると男性は 168,347 人で女性 は 190,231 人である。昭和 60 年くらいまで旭川市の人口は増え続け、その後は横ばいになっているが、近年序々に減少傾向にある。旭川は 35 万人都市として北海道第 2 の人口を誇るが、今後、少子化などの影響により人口がさらに減少することが予測される。課題として女性が働きながら子育てが出来る環境をもっと整備していくことが必要であろう。

5.産業別人口



データ：事業所・企画統計調査

表 1 産業別労働者人口

第 1 次産業	第 2 次産業	第 3 次産業	総数
8465 人	40521 人	124188 人	173174 人

グラフより第 3 次産業従事者が最も多いことが分かる。ついで第 2 次産業、第 3 次産業と次ぐ。昭和 50 年頃には第 1 次産業従事者は約 10000 名いたが、時代の流れとともに徐々に減少し現在は約半数である。逆に第三次産業従事者の割合は年々増加傾向にある。旭川は昔から農業のさかんな地域なので農業の衰退がこれ以上進まないように、農家の保護・育成をしていくことも課題になるであろう。また、観光リゾート産業も多く、最近ではさらに情報処理など情報産業といった分野でも急成長が見られる。しかしながら、北海道の経済を成長させてきたのは主に本州の企業であり、北海道の大手企業というのはほとんどない。経済力など北海道の統計数値を見ていくと、主な先進諸国に十分通用する力がある。

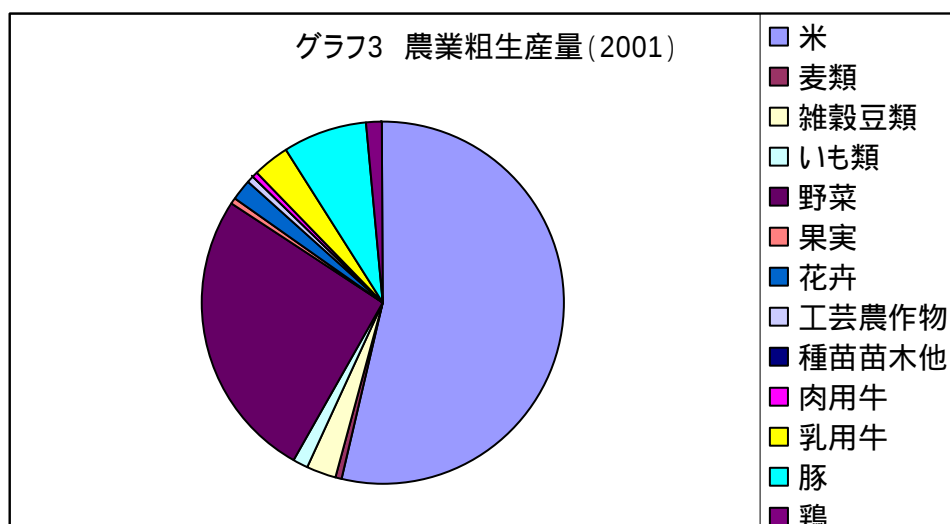
6．産業

旭川市は、農業の集散地・物流の拠点で、商業都市。かつては「旭川商人」という言葉もあった。現在は、下記のグラフでも分かるように食品加工業が盛ん。製紙業・印刷業もさかんであり、地場産業としては酒造業（日本酒・焼酎）や家具製造業がある。また、昔から良質米の産地として知られ、米作が盛んである。最近では、枝豆を多く生産している。神居古潭地区では、りんごやさくらんぼなどの果樹生産が盛んである。また、旭川市はソバの産地でもあり、生産量が国内第 3 位である。江丹別地区で栽培されているソバは「江丹別そば」として東京の老舗でも使用されているほど有名である。旭川市の産業の出荷額は総額 2047 億 9000 万円である。

6.1 農業

表 2 旭川市農家数・農家人口（平成 12 年 上川支庁）

農家総数	自発的農家	専業農家	兼業農家	農家人口
2431 戸	248 戸	762 戸	1421 戸	8465 人

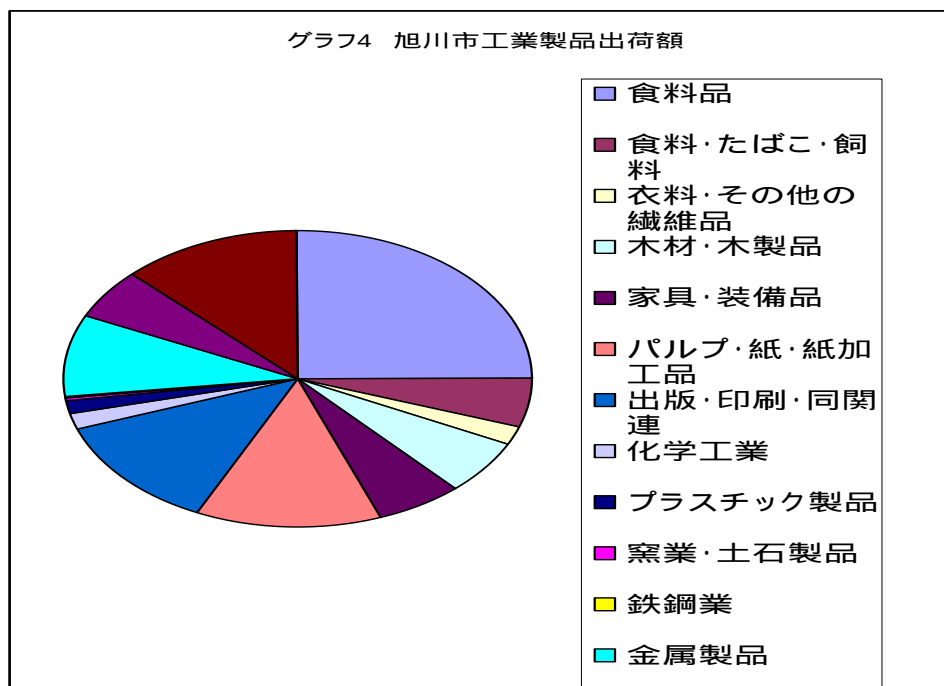


資料：農林水産省北海道統計情報事務所編「農業統計市町村別」

表 2 より、旭川市の農家は自発的農家や専業の農家の数は兼業農家に比べ極端に少ない。前述もしたが、やはり時代の流れとともに農業のみでの生活が困難になってきたのだろうか。

旭川市街周辺は、上川百万石と言われる水田地帯であり、北海道では、最も収穫が安定している。粗生産額の割合は、米が約 6 割を占め、旭川の農業の中心となっている。

6.2 工業



平成 15 年 12 月 31 日現在 資料：工業統計調査

旭川市の工業は現在約 4 割が食料品で占められている。工業の総製造出荷額は 19,104,204 円である。また、旭川は、家具産業が盛んであり、日本五大家具産地のひとつに数えられる。明治末期に本州から家具建具職人達に移住。1955 年頃から“産業”として家具づくりが盛んになった。明治末期、師団の駐屯により兵舎など多くの建物が必要になったことから、旭川には本州から大工や家具建具職人が数多く移住してきた。豊富な木材と腕のいい職人に恵まれ、旭川では自然と家具づくりが盛んになっていったが、当時、札幌と小樽も家具産地であったことから旭川近郊だけでは過剰生産気味に。そのため旭川は本州へと商圏を拡げ、結果、55 年頃から産業として徐々に定着していった。

6.3 商業

表 3 旭川市の卸売業と小売業との比較

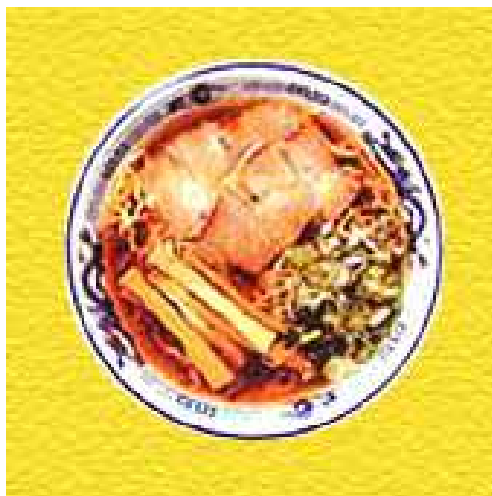
卸 売 業			小 売 業		
商店数	従業者数	年間販売額	商店数	従業者数	年間販売額
1,235	12,315	94,927,991	3,163	24,675	44,048,733

旭川は商業都市ということもあり、商業はとても盛ん。卸売業と小売業の年間販売額は総額 138,976,724 円に上る。このうち、約 4 割を飲食料品の商店が占める。次に織物・衣服の商店が次ぐ。その他に自動車や自転車、家具、じゅう器、家庭用機金器具などの産業が盛んである。

7.特産物

旭川市は、物流の拠点であるので、日本海、オホーツク海、太平洋の 3 つの海から、新鮮な海産物が集まる。また、野菜の一大産地でもある。また、「豚トロ（ピートロ）」発祥の地である。旭川周辺は、畜産が盛んであり、ジンギスカンやホルモン、鹿肉などの品数が豊富である。旭川ラーメンの特徴は、スープには豚骨をベースに使い、豚骨独特の臭みを消すため魚だしを合わせて使っている。醤油味でも見た目にスープが濁っているため、濃い目の味付けと思われがちだが、スッキリとした味でコクがある。また、麺にも様々な工夫がされており、色は黄色で縮れ麺。あっさり目のスープとの相性は抜群である。

図 4 旭川ラーメン



出典：あさひかわらうめん青葉

8.観光

図 5 旭山動物園広告



出典：旭山動物園HP

日本最北の動物園。大プールで泳ぐホッキョクグマなど、動物本来の姿が見られる動物園として人気を呼ぶ。2005年夏には3ヶ月連続来園者数日本一になる。今年8月5日に「チンパンジーの森」がOPENし、更なる人気を呼んでいる。2004年7月の月間入園者数は18万5461人であり、8月は32万1500人を記録。これは上野動物園を抜いて、日本一の月間入園者数である。また平成17年度の入園者数は、260万人を超えた。

旭川冬まつり

1年中でもっとも寒さの厳しい2月に、開催される旭川冬まつり。

雪と寒さを積極的に楽しもうと、1947年(昭和22)アイヌの人たちによりイヨマンテ(熊まつり)が始まりだった。翌年には雪像が造られ、1960年(昭和35)正式に第1回旭川冬まつり開催となった。回を重ねる毎に「雪の女王コンテスト」「全国氷彫刻展」「花火大会」など多彩なイベントが加わり、雪像の規模も大きくなった。

旭川冬まつりを訪れる観光客も増え、雪像づくりや氷彫刻コンテストなど、体験する楽しさを味わってもらうなど、雪あかりや氷の芸術イルミネーションなど、大雪像だけではなく、幻想的な世界も楽しんでもらうビックイベントとなった。観光客数は、毎年平均89万人の人が訪れている。

図 6 旭川冬祭り資料

雪像



世界最大級の壮大なスケールで作られる大雪像は、旭川冬まつりのシンボル。骨組みを一切使わず、雪だけでできているという事実に、驚かれる方も多いだろう。

雪の芸術とも言えるほど細部までこだわった精緻な作りで、ビルの3階に相当する高さのバルコニーからその大きさを体感できる。

❖ 彫刻世界大会



一流の氷彫刻家たちが腕を競う、世界屈指の氷彫刻大会。

2 昼夜をかけて彫り上げる氷の芸術品は、昼と夜では全く異なる表情を見せるのも見どころの一つ。ライトアップされた氷像は通りを幻想的に演出し、白い雪像群とは別の趣を冬まつりに与えている。

❖ あさひかわ雪あかり



雪や氷、樹木という自然の素材や景観を使い、美しい"あかり"で見慣れた冬の景色を全く別の世界に変える「あさひかわ雪あかり」虹彩色の布に包まれた雪景色に、鮮やかなイルミネーションが灯り、夜の会場をファンタスティックに演出する。

❖ 雪あかりの緑道(みち)



樹木とあかりとイルミネーションによるメルヘンチックな夜の空間を演出し、冬まつり会場へと足を運ぶ人々をやさしく、暖かく導く。

参照ホームページ

旭川市役所ＨＰ：<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/>

旭川情報ねっと：<http://www.ajnet.ne.jp/>

ＪＡあさひかわ：<http://www.ja-asahikawa.or.jp/>

旭山動物園ＨＰ：<http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo/>

旭川観光協会：<http://www.asta.or.jp/>

あさひかわらうめん青葉：<http://www5b.biglobe.ne.jp/~aoba1948/>